

高温と少雨に備えた穂肥と水管理で、収量・品質の確保を！

○ 今後も高温・少雨が続くと予想されています。高温・少雨対策として**確実な穂肥施用と飽水管理の徹底**で後期栄養を確保し、収量・品質を安定確保しましょう。

- 多くのほ場で葉色がさめ始めています。幼穂形成期以降に葉色が大きく低下すると品質が低下するおそれがあるため、穂肥を施用し、葉色を維持しましょう。
- 基肥一発施肥の場合も、葉色が薄い場合は、追加の穂肥を施用しましょう。
- 出穂期は水を最も必要とする時期です。飽水管理を徹底し、ほ場を乾燥させないようにしましょう。

1 出穂期10日前穂肥（2回目穂肥）は適期に確実に施用！

○ 出穂期は、近年平均（過去10年）より1日程度早まる見込みです。

表1 コシヒカリの出穂期予想と穂肥適期のめやす

田植日	出穂期予想	← 基肥一発の追肥時期 →		
		1回目穂肥 (18~15日前)	2回目穂肥 (出穂期10日前)	3回目穂肥 (3日前)
5/15	8/1	7/14~17	7/22	7/29
5/20	8/3	7/16~19	7/24	7/31
5/25	8/5	7/18~21	7/26	8/2

※ 同じ田植日でも、山間地では、上記より出穂期が2~3日遅れます。
地域によって、気象条件やほ場条件が異なるため生育状況を確認してください。

表2 コシヒカリの2回目穂肥施用量

窒素成分量	[施用例] 越後の輝き有機50穂肥 または 越後の輝き有機30穂肥
1 ~ 1.5 kg/10a	8.3 ~ 12.5 kg/10a

2回目穂肥は下位節間の伸長には影響しません。



- 2回目穂肥は**確実に施用**しましょう。
- 葉色がかなり薄い場合や、3回目穂肥の対応が難しい場合は、2回目穂肥の増量を検討しましょう。

○ 基肥一発施肥体系の場合

・緩効性肥料の溶出が早まり、後期栄養不足が懸念されます。出穂期の葉色（SPAD値）が32~33を下回ると予想される場合は、出穂期の10日前頃に追加穂肥を施用しましょう。（窒素成分1~1.5kg/10a）



図1 葉の出方による穂肥時期の診断方法
止葉の葉耳とその下の葉の葉耳が並んだ頃（葉耳間長=0cm）が出穂のおよそ10日前です。

2 出穂期以降も高温の予報、追加穂肥(3回目穂肥)も検討!

- 分施肥体系の3回目穂肥
 - ・ 出穂期3日前の葉色(SPAD値)が31以下のときは、3回目穂肥を施用。(窒素成分で1kg/10a)
- 分施肥、基肥一発施肥体系とも、追加穂肥は速効性肥料主体のものを施用しましょう*。
 - ※ 特別栽培米で計画にない追加穂肥や施肥量を増やす場合は所定の手続きを行ってください。

3 出穂期前後は最も水を必要とする時期! 飽水管理の徹底を!

限りある用水を大切に!

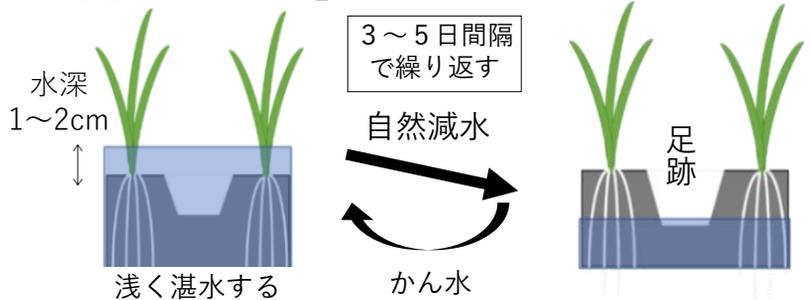
- こまめな水回りを行うとともに、末端のほ場まで用水が行き渡るように、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止めましょう。
- 番水やローテーションで用水を有効に利用するなど節水を心掛け、**かけ流しは絶対に行わないように**しましょう。

- 梅雨入りからまとまった降雨がなく、今後の天気予報でも降水量が少ない見込みが続いています。
- 土壌からの窒素発現は、土壌を乾燥させると減少し、過度に乾燥させると著しく抑制されます。地力窒素の発現を促し、後期栄養を維持するために、出穂期25日後までは**飽水管理を徹底**しましょう。
- フェーン現象等による異常高温や乾燥が予想される場合には、地域の用水計画に応じて早めのかん水をしましょう。ただし、長期の湛水は避け、可能な限りほ場の水温上昇を抑えるこまめな水管理をしましょう。

【飽水管理の方法】

飽水管理とは…

水尻は止水し、自然落水で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水が残る程度になったらかん水する。



4 斑点米カメムシ類の発生多い! 防除は適期に!

- 県内の7月上旬の水田畦畔すくい取り調査では、アカスジカスミカメが平年より多く確認されています。魚沼市でも同様に発生が多い状況です。
- 農道・畦畔の除草は、雑草が結実しない間隔で行いましょう。
- 水田内のノビエやホタルイは斑点米カメムシ類の発生源になるため除去しましょう。
- 薬剤防除は、各薬剤の適期に実施できるように準備しましょう。
- 水面施用剤は、防除効果を確保するために、水深3cm程度の浅水条件で、できるだけ散布後好天が予想される日に散布しましょう。

【QRコードを読み取り稲作情報を確認しよう】

JA魚沼 北魚沼地区
営農情報(LINE)
はこちら →



魚沼農業普及指導
センターHP稲作情報
はこちら →



お問い合わせ先

JA魚沼北魚沼基幹営農センター 025-793-1770
(SPADの貸し出しもJAで行っています)

魚沼農業普及指導センター 025-792-1309

こまめな水分補給で、熱中症を予防しましょう。農作業事故に気を付けましょう。